

埼玉大学ストーリー

経済経営系大学院

Saitama School of Economics & Management



埼玉大学の大学院って、実際どんな場所なの？

大学院への進学を検討しているものの、大学院での生活が不安な方や修了後の進路が思い描けない方もいらっしゃるでしょう。そこで、埼玉大学大学院を修了した学生の皆様にご協力いただき、修了後のご活躍の様子について教えていただきました。

第1回

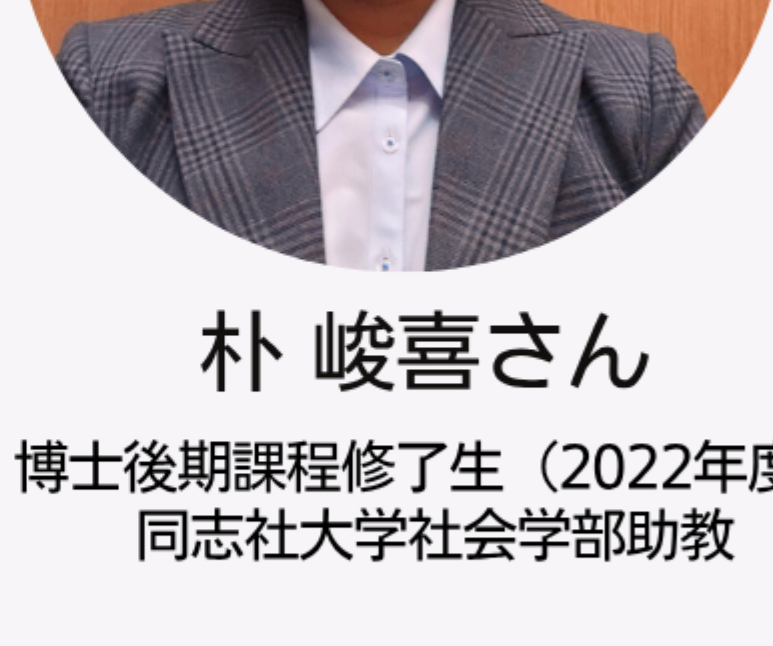
大学教員として活躍している修了生

第1回目は、埼玉大学大学院博士課程を修了後、研究者としてご活躍されている善野さんと朴さんにお話を伺いました。



善野 吉博さん

博士後期課程修了生（2024年度）
福山大学経済学部教授



朴 峻喜さん

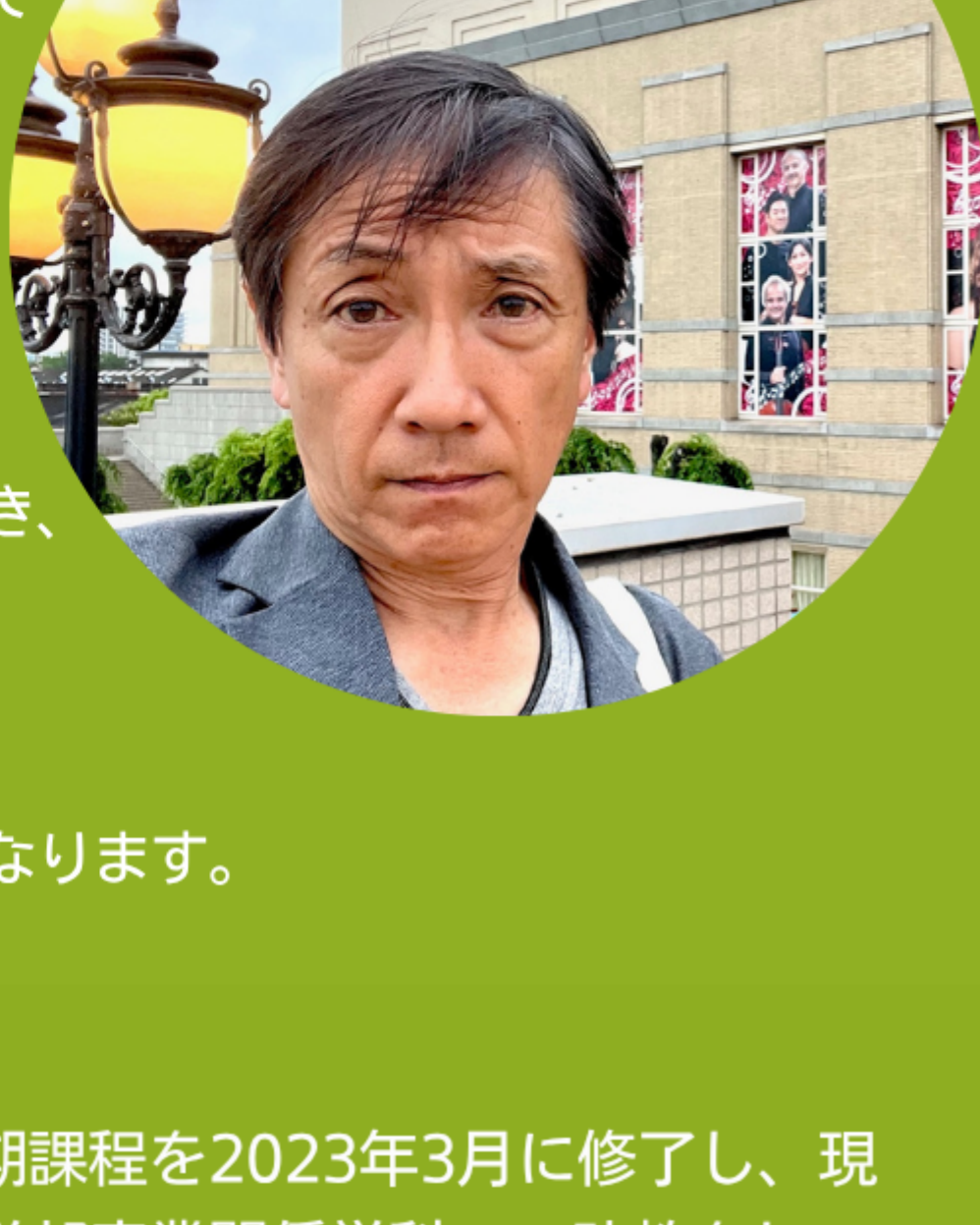
博士後期課程修了生（2022年度）
同志社大学社会学部助教

まずは、お2人の経歴・バックボーンを伺います

>善野

昨年の3月に埼玉大学で博士号を取得し、今年の4月から、福山大学の経済学部経済学科で、金融システム、環境経済学を教えています。

私は還暦ですが、もともと大学を出た後は、金融機関に勤め、シンガポール、東京、香港、上海等でディーリング業務をしていました。その後、別の会社へ行きましたが、たまたま2021年に、経営学修士（MBA）を取りに行きました。これは2年で終わるんですけども、その後にやっぱりこれで終わりたくない、もう1つ山を超えたいと思いました。でも、MBAを取った大学では、社会人を続けながらの博士号取得は難しいということだったんです。そのようなとき、埼玉大学に在籍していらっしゃった知り合いの方から、大学院経済経営学科について話を聞き、最終的に進学を選択しました。修士課程は経営学でしたが、博士課程では環境経済学を専門にして、経済学の博士号を取得したことになります。



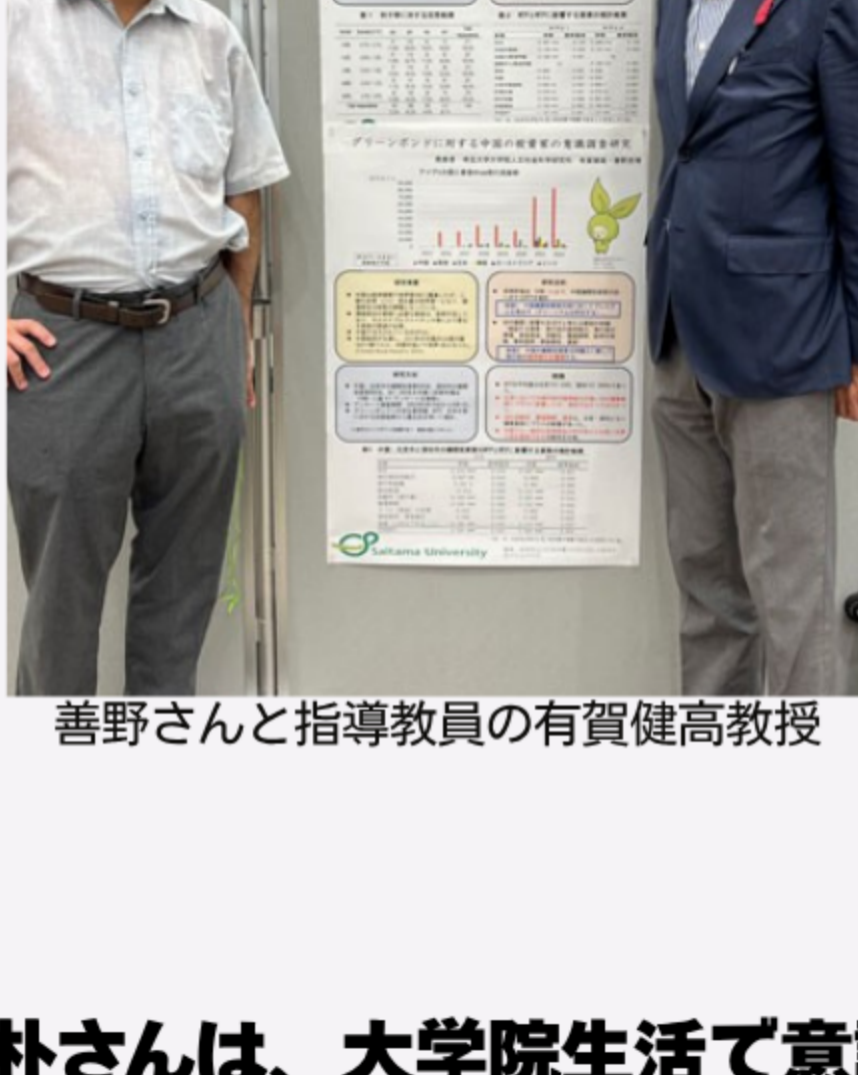
>朴

私は、埼玉大学博士後期課程を2023年3月に修了し、現在は同志社大学の社会学部産業関係学科で、助教をしております。なお、現在に至るまで、大学院時代には法政大学において研究員を、大学院修了後は立教大学経済学部の助教を務めたことがあります。専門分野は、労使関係、労働経済、労働運動論です。

もともと私は、韓国の釜山大学で修士課程を修了し、博士課程の学生だったんですけど、2018年、偶然にも交換留学で埼玉大学へ行く機会がありました。そこで、参加した労働研究会にハマって、釜山大学を辞めて2019年に埼玉大学博士後期課程に入学しました。



在学中の過ごし方について 印象に残っていることはありますか？



善野さんと指導教員の有賀健高教授

>善野

在学中は、指導教授の有賀先生だけでなく、長田先生（金融論）や金井先生（労働経済論）の、学生に寄り添った丁寧な研究指導を受けることができました。3年間、社会人しながら、英語で論文を5本書きましたが、これは結構驚異的な成果だと思います。最初から最後まで、ずっと有賀先生がついて、もうチャットしてんのか？っていうぐらいメールのやり取りをして書き上げました。また、環境経済学を専門としながら、埼玉大学金融研究会にも入れていただきまして、そこでは学会の予行練習までやってもらいました。

朴さんは、大学院生活で意識したことはありますか？

>朴

博士学位を取得し、研究職に就くためには、研究をする力がとても重要です。研究実績をしっかりと積み重ねる、研究雑誌に論文を載せることを意識しました。私の場合は、受賞経歴や、色々な機関で研究職を務めたことも、功を奏したと思っております。

研究内容に関しては、インパクトがある研究、とりわけ、新規性が大事ではないでしょうか。色々な研究を見ながら、自分なりの想像力を育てることで。



留学生ならではの苦労や、 異国で研究する大変さがありましたか？

>朴

留学生として難しいのは、やはり日本語の問題です。もともと交換留学で来日したときには、英語で授業を受ける前提でございました。ということで、まったく日本語の勉強をしておらず、留学生としてどう生活すればいいのかわかりませんでした。ただ、埼玉大学は留学生の多い大学なので、さほど違和感はありませんでした。留学生が多いため、韓国、日本以外の国についても議論し、海外のことを研究テーマにできることは、この大学の特徴といえます。

もちろん、指導教員によっては、英語で論文を書くことができるため、日本語ができない留学生も学ぶことはできます。

ただ、日本で研究をする以上は、ある程度日本語を修得する必要があります。指導教員とも相談し、日本語で研究を発信することの重要性を認識し、日本語で博士論文を書き上げました。日本語を修得したおかげで、日本の学生と活発に議論し、日本の労働市場と海外の労働市場の特徴を比較することができました。



朴さんと指導教員の禹宗杭 教授

アルバイト等はしていたのですか？

>朴

院生時代は研究に専念していたのですが、やはり経済的な支えがないと、研究を継続することはとても難しいと思います。アルバイトをしながら研究をすることは、時間的にも体力的にも厳しいです。私は、2つの奨学金を受けることができましたが、他大学の大学院のレベルの高い学生との競争を勝ち抜くには、自分の研究の特徴をアピールする必要がありました。奨学金を取るためにも、研究活動に専念することは重要です。個人的に、埼玉大学での院生時代、学位を取ったことは、人生で一番よくやったことと自負しています。



埼玉大学の魅力はどこにあると思いますか？

>善野

私は、福山大学に就職するまでに、エントリーシートを何通も落とされました。社会人教授への到達は、本当に高いハードルでしたが、その過程で多くの先生が、「善野さん大丈夫！」「こういう大学あるよ！」って紹介してくれたりして、サポートをくださいました。こんな大学はほかにないと思います。それから、この東京ステーションカンパレーは、非常に便利です。私の職場は神田でしたが、職場からキャンパスまでほぼ10分、非常に助かりました。卒業した後も、同窓会みたいな感じで呼んでいただけるし、きっちりと面倒を見てくれるということで、本当におすすめです。

一般的に、社会人が博士号を3年で取ることは非常に難しいです。でも3年で取れる環境を作ってくださいし、その後のキャリアもサポートしてくれるということで、ぜひともご検討いただければと思います。

>朴

善野さんのような、多くの社会人の方との議論から学ぶものが多かったです。労働を研究するうえで、働く方々の経験はとても重要でした。学生として学んできた理論と、社会人の経験を共有しながら、お互いに成長することのできる大学院だと思います。あわせて、同世代の友人と議論することは簡単ですが、幅広い年齢層の方と会って議論する機会は貴重でした。善野さんが参加されていた金融研究会以外にも、様々な分野で研究会が形成されており、私の場合は月2回、労働研究会に参加していました。教員に加え、修了した先輩、同期、後輩が集い、お互いのテーマについて議論したり、論文に対しアドバイスをもらえる場になっています。こういった場があったことで、日本語のレベルも、論文を書ける水準になりました。

労働研究会で社会人の方たちと食事会をしていたら、
いつの間にか日本語ができるようになっていたと聞きました（笑）

お二人とも本日はありがとうございました

あらためて、埼玉大学経済経営系大学院は、研究論文を書くことをメインにしています。インプットも当然重要ですが、それを踏まえて自分の意見、自分の仮説、自分の見方をアウトプットする楽しさというものを、この大学院で学んでほしい。そのために我々がサポートするというスタイルを取っています。

研究志向型大学院では、博士前期に入って、面白いと思ったテーマを掘り下げてみたい場合、博士後期課程に進学する、博士号を目指すということも可能になります。

実績としては、過去10年間、72名が博士後期課程を修了し、博士号を取っています。善野さん、朴さんを含めた修了者の2名に1名以上、実に37名が、大学教員として活躍されています。

大学に勤めるというのは、狭き門ではありますが、埼玉大学で博士号を取ると、大学教員という次のキャリアが実現可能な選択肢になるということを強調したいと思います。

次回の特集もお楽しみに！



埼玉大学大学院でお待ちしています